

マルコによる福音書 9章 14-29 節 キリストに付き従う者は、信仰をもって祈る

本日は、マルコによる福音書 9章に戻ります。この箇所では、ペテロとヤコブとヨハネは（イエスの）変貌を経験した山を下り、他の 9 人の弟子たちと再会します。そして、彼らが次の出来事に直面した時、イエスはこの状況を用いて、キリストに付き従う者が持つべき信仰についてさらに詳しく教えられました。今日の箇所はマルコの福音書 9：14-29 です。この箇所を読むとき、3 人の弟子たちが（この箇所の前に）経験したことを心に留めておいてください。彼らはイエスの変貌を通じて神の栄光を直接体験したのです。私たちもそのような経験をする可能性があります。もちろん、（弟子たちと）同じ方法ではありませんが、私たちも礼拝中に、この世の心配事や懸念事項が心の片隅に追いやられ、神がどのようなお方であるか、神を知ることによって私たちの人生がどのように変えられてきたのかだけに集中できることがあります。願わくば、毎週礼拝に集うとき、皆さんがこのような経験をしたいと、私は考えています。しかし、山頂での（素晴らしい）神の栄光を体験した後で、この世に戻ることが避けられません。その際に、神の栄光を体験したことによって強められた信仰を生かすことが求められます。これらの点が、この聖書箇所の始まりに見られることなのです。

それではマルコの福音書 9：14-16 を見て行きましょう。¹⁴ さて、彼らがほかの弟子たちのところに戻ると、大勢の群衆がその弟子たちを囲んで、律法学者たちが彼らと論じ合っているのが見えた。¹⁵ 群衆はみな、すぐにイエスを見つけると非常に驚き、駆け寄って来てあいさつをした。¹⁶ イエスは彼らに、「あなたがたは弟子たちと何を論じ合っているのですか」とお尋ねになった。（私たちが生きる）現実の世界は神の栄光に焦点を当てることがありません。神を礼拝していると主張していながら、実際には人々を神から遠ざける偽りの教えを説く者たちも存在しています。弟子たちと議論している律法学者たちがまさしくそのような者たちでした。さらに、（イエスの）奇跡には興味を持っているが、イエスに付き従う者ではない、群衆たちもいます。このような律法学者に代表される偽宗教の立場から考えても、群衆に代表されるこの世的な立場から考えても、神への礼拝、そしてキリストに付き従うことから、私たちの目をそらさせるような出来事や論争は尽きないのです。しかし私たちが、キリストへの信仰を拒絶したり誤解したりするこの現実の世界に生きるよう召されているのです。しかし、このような状況の中にイエスがおられるとき、宗教的な反対に直面しようと、世間からの誤解に直面しようと、また、肉体的な、そしてこの場合は悪魔的な病気の痛みにも合おうとも、私たちはイエス・キリストの御業に確信を持つことができます。ここで問題だったのは、イエスが不在であったことなのです。しかし、今、イエスが戻られ、すべてが一変したのです。イエスは、集まっているすべての人に向かって、何が起きているのか質問し、イエスに従う者たちと律法学者がなぜ怒りの口論を引き起こしているのかを問うたのです。

この聖書箇所で述べられているのは、ある事態が起こり、イエスがいなければ、弟子たちはその状況を改善することができなかったのです。これは私たちにも起こりうることなのです。現実の世界では、私たちの信仰の根幹を揺るがすような困難に直面することがあります。群衆、律法学者と弟子たちの口論の元凶となった一人の男が群衆の中から現れ、非常に困難な状況が浮かびあがったことが、ここでは分かります。それでは本日の聖書箇所の後半、17 節から 27 節を見ていきましょう。¹⁷ すると群衆の一人が答えた。「先生。口をきけなくする霊につかれた私の息子を、あなたのところに連れて来ました。¹⁸ その霊が息子に取りつくと、ところかまわず倒します。息子は泡を吹き、歯ぎしりして、からだをこわばらせます。それであなたのお弟子たちに、霊を追い出してくださいとお願いしたのですが、できませんでした。」¹⁹ イエスは彼らに言われた。「ああ、不信仰な時代だ。いつまで、わたしはあなたがたと一緒にいなければならないのか。いつまで、あなたがたに我慢しなければならないのか。その子をわたしのところに連れて来なさい。」²⁰ そこで、人々はその子をイエスのもとに連れて来た。イエスを見ると、霊がすぐ彼に引きつけを起こさせたので、彼は地面に倒れ、泡を吹きながら転げ回った。²¹ イエスは父親にお尋ねになった。「この子にこのようなことが起こるようになってから、どのくらいたちますか。」父親は答えた。「幼い時からです。²² 霊は息子を殺そうとして、何度も火の中や水の中に投げ込みました。しかし、おできになるなら、私たちをあわれんでお助けください。」²³ イエスは言われた。「できるなら、と言うのですか。信じる者には、どんなことでもできるのです。」²⁴ するとすぐに、その子の父親は叫んで言った。「信じます。不信仰な私をお助けください。」²⁵ イエスは、群衆が駆け寄って来るのを見ると、汚れた霊を叱って言われた。「口をきけなくし、耳を聞こえなくする霊。わたしはおまえに命じる。この子から出て行け。二度とこの子に入るな。」²⁶ すると

と霊は叫び声をあげ、その子を激しく引きつけさせて出て行った。するとその子が死んだようになったので、多くの人たちは「この子は死んでしまった」と言った。²⁷しかし、イエスが手を取って起こされると、その子は立ち上がった。

ここで問題の核心に触れることができます。弟子たちはこの子供を助けようとしたのですが、できませんでした。群衆は、イエスが行った癒しを見ることに慣れていました。そして、律法学者たちは、なぜその癒し（の奇跡）が神からのものでないのか（を証明する）さまざまな議論を展開していました。そして、悪霊に取りつかれた息子を持つこの男は、イエスがどのように様々な癒し（の奇跡）を行ったのかという話を次から次へと聞いていましたが、彼の息子の上にその奇跡は起こっていませんでした。イエスはこのような状況の中に入り、真の信仰がどのように働くかを示されました。そして、それは、集まった群衆の誰もが考えていたような方法ではなかったのです。この癒しでまず注目すべき、一つのポイントは、ここで焦点が当てられているのは、奇跡そのものではなく、イエス・キリストを信じる信仰であるという点です。どれぐらい信仰を持っているかは、重要ではなく、信仰を持っているのか（持っていないのか）が重要だったのです。私たちはこのことを2つの異なる方法で見ることができます。弟子たちは、この少年から悪霊を追い出すことができませんでした。イエスは、過去のように弟子たちの信仰の欠如や心の頑なさを非難されてはいません。マルコの福音書6章で、イエスが弟子たちの信仰の欠如を非難した場面を思い出してください。マルコの福音書 6:51-52には、「⁵²そして、彼らのいる舟に乗り込まれると、風はやんだ。弟子たちは心の中で非常に驚いた。⁵²彼らはパンのことを理解せず、その心が頑なになっていたからである。」と書かれています。しかし、この箇所に関して、ある聖書注解者は次のように語っています。「ある能力がないというのは、単なる限界であって、欠陥ではない...」。ここで、**不信仰な時代**として批判されているのは群衆であって、弟子たちではないのです。群衆はいつものようにイエスへの信仰によって集まってきているのではなく、弟子たちが執り行う事ができない（奇跡の）ショーを見るために集まっていました。人間として持っている限界のために、私たちが達成できない課題は、常にこの世に存在しています。弟子たちと同じように、イエスは失敗した私たちに鉄槌を下すのを待っておられるではありません。むしろ、私たちの能力の有無に基づいてではなく、私たちの信仰（の有無）に基づいて、ご自分を信じる者のために行動して下さるのです。これが、この箇所では信仰の有無に焦点が当てられていると考えられる第二の、そして最も重要な理由です。もちろん、それは父親の中にある信仰です。この父親は、すべての希望を打ち砕かれて、イエスが近くにいると聞いて、息子を連れてきたのです。この父親は、この少年が悪霊にとりつかれて苦しんでいるのを何年も見てきました。彼は、たとえイエス御自身が不在であったとしても、イエスに従う者たちが同じ癒しを行うことができるかもしれない、と考えたのです。マルコの福音書で以前見たように、人間の希望が打ち砕かれたとき、イエスは歩み寄り、希望を与えて下さるのです。

見てわかるように、問題は信仰の有無ではありません。問題は、その信仰がもともとどこにあったかという点にあります。もしかしたら、（その父親の信仰は）イエスの弟子たちもイエスと同様の力があると信じていたかもしれません？彼の信仰は、イエスに向けられていたというよりも、ある意味で弟子たちに向けられていました。しかし、彼がイエスへの信仰を表明したとき、イエスは彼の絶望的な状況に希望をもたらしたのです。私たちは、弟子たちがイエスを信頼していたことを知っています。この事実は、これまでマルコの福音書の中で明らかにされています。そして今、イエスはこの男に、神の子としての自分への信仰を認めさせようとしているのです。しかし、イエスは、この父親の明確な信仰の欠如を利用して、そうされたのです。この父親は、イエスに向かって、「できることなら、助けてください...」と言っています。それに対して、イエスは23節で、「**できるなら、と言うのですか。信じる者には、どんなことでもできるのです。**」と答えています。イエスは、意地悪で、あるいは残酷さからこのように言っているわけではありません。また、皮肉からこのように言っているのでもありません。この男に、彼の持っているわずかな信仰で十分であることをわからせようとしているのです。なぜなら、この男は24節で、彼が信仰を持っていることを明らかにする応答を行なっています。私たちもこのような応答を行うべきなのです。彼は、「**信じます。不信仰な私をお助けください。**」と言っています。イエス・キリストを信じる私たちは皆、この男と同じような立場にあるのです。私たちは信仰を持っていますが、どの信仰も完璧ではありません。真の信仰を持つ者は、自分の信仰がいかに小さく、不十分であるかを常に自覚しているものなのです。しかし、ここで示されている素晴ら

しい真理は、神が求めているのは完璧な信仰ではなく、真の信仰を持っているかどうかだけなのです。実際、私たちが持っているほんの少しの信仰でさえ、神からの賜物であり、神は私たちのために働くことによって、その信仰に応じてくださるのです。この真実を私たちは、**エペソ人への手紙 2:8-9**で見ることが出来ます。⁸**この恵みのゆえに、あなたがたは信仰によって救われたのです。それはあなたがたから出たことではなく、神の賜物です。**⁹**行いによるものではありません。だれも誇るためのないためです。**私たちの救いそのものから始まり、私たちの信仰がイエスの御前で完璧にされるまで、生涯を通して、私たちは、神が救いのために選んだ人々に与える信仰の賜物を通して、イエスを信じ、信頼するのです。

しかし、ここで注意すべきことがあります。私たちがあらゆることにおいてイエスを信頼できない理由のひとつは、イエスがそこにおられるにもかかわらず、イエスが現れたからと言って、すぐに事態が良くなるとは限らないからです。それどころか、事態が悪化することすらあります。それが20節に書かれていることなのです。イエスのもとに連れて来られた少年は元気そうでしたが、イエスの前で悪霊が少年を肉体的に傷つけました。すなわち、事態は良くなるどころか、悪化してしまったのです。旧約聖書のヨブの物語を見ると、神ご自身がヨブの人生に直接働きかけていたことは明らかでしたが、ヨブの視点から彼の状況を見れば、事態は非常に悪化していました。なぜなら、ヨブから見ると、(神からの働きかけは)神からの沈黙以外の何ものでもなかったからです。**ヨブ記 30:20**において、²⁰**私があるあなたに向かって叫んでも、あなたはお答えになりません。私が立っていても、あなたは私に目を留めてくださいません。**とヨブは訴えています。悪魔に取り憑かれた息子を持つ男と同じように、ヨブにとって神が彼を試すことを選んだとき、人生はより困難なものとなりました。ヨブは神への信仰を持っていましたが、だからといって人生が楽にはなりませんでした。それどころか、彼が真の神を崇拝していなければ、サタンは彼を放っておいたに違いありません。結局のところ、イエスは奇跡を起こすために全能の神としてこの状況に入ってくられます。しかし、時としてある状況において、神が臨在していることが、私たちにとっては祝福とは思えないことがあります。その理由のひとつは、私たち人間は神がなされる奇跡を求めています、神はご自分を信頼しなさいと言っておられるからなのです。私たちは奇跡に対して素晴らしいと感動することもできます。ただ、神は私たちが神を信頼し、信じることを望んでいます。そしてそれは人を通じてなのです。その人とはイエスです。

そして22節で「**私たちがあわれんでお助けください**」と男が求めたように、イエスはこの男に対してあわれみを示すことで、男の信仰に応えられた。イエスは群衆に男の信仰とそれに対する神の反応を見せたかったので、25節に「**群衆が駆け寄って来るのを見ると**」と書いてあります。この群衆は、まだイエスを信じておらず、少なくとも奇跡を見たいという願望とは別に、真の信仰を持ってはいませんでした。しかし、福音の真理を証明する最良の証人は、真にイエスに従う人々の信仰の中に見ることが出来ます。イエスは、群衆に本当の信仰の力を見せるために、この癒しを公な形で行われました。イエスはいつもこのようなことをするのでしょうか？いいえ。しかし、神が奇跡をなされるのは、それが祝福を受けた人のためだけでなく、それを見る人々のためでもあります。イエス・キリストを信じ、その真実を生きる信仰に勝る、福音の真実の証人はいません。小さな信仰、大きな信仰.....もう一度言いますが、信仰が多いか、少ないかは問題ではないのです。しかし、神が私たちを変え、時には私たちを取り巻く状況に介入される中で、その信仰が私たちの人生に及ぼす影響は、キリストを信じる信仰が私たちの人生にもたらす違いを周囲に示す証拠となるのです。そこでイエスは、少年に取り憑いていた悪霊から少年を解放して癒されました。みなさん、思い出してください。ちょうどこの時期、イエスは、ご自身の死と復活の必要性について非常に率直に語り始めたばかりでした。この奇跡は、ささやかながら、来るべきご自身の死と復活の意味を示す客観的な教訓としての役割も果たしているのです。人々は少年が死んだと思っていました。悪霊からの解放は、少年の「死」.....少なくとも、人々が少年は死んだと思ったことによって、もたらされました。同様に、罪からの解放は、イエスの死、すなわちイエスが私たちの罪の対価を支払うことによって、もたらされました。しかし、私たちの信仰の保証は、キリストの復活によってもたらされます。少年が悪魔から解放され、人生を完全に回復したのと同じように、私たちの信仰は死んだ救い主ではなく、復活した主イエス・キリストにあるのです。

しかし、イエスがここにいるすべての人々に示している、この信仰についての教訓にはまだ重要な点が、もう一つあります。28-29節でこのエピソードが終わりに近づくにつれ示されている、信仰における祈りの位置づけについて見ていきましょう。²⁸イエスが家に入られると、弟子たちがそっと尋ねた。「私たちが霊を追い出せなかったのは、なぜですか。」²⁹すると、イエスは言われた。「この種のもの、祈りによらなければ、何によっても追い出すことができません。」なぜ自分たちでは悪魔を追い出せなかったのか？という弟子たちは正当な質問をしました。イエスの答えは単純なもので、「祈り」が必要だったというものでした。神の御業と私たちの信仰の架け橋となるものは、祈りなのです。あらゆる状況においてどのような結果がもたらされるかは、私たちの信仰の量によってではなく、神によって決定されます。しかし、どのような状況においても、私たちがすべきことは、祈りによって神に向かうことによって信仰に基づいて行動することなのです。この箇所は、マルコの福音書の中でイエスが誰かに祈ることを求めた最初の箇所です。イエスが人々に祈りを呼びかける場面は数回しかありませんが、それらはすべて、イエスの死に至る最後の数週間に起きています。信仰と祈りの関係を理解するには、まず、祈りとは何かを知る必要があります。祈りとは、最も簡単にいうなら、単に神に語りかけることです。祈るために、使わなければならない言葉、あるいは形式はありません。神への賛美、恐れ、必要としているもの、心配事、希望、願いを神に伝えるために必要な言葉を用いればそれで良いのです。祈りにおいて、祈ってよいこと、祈ってはいけないことはありません。しかし、神の御言葉であるキリストを知れば知るほど、私たちの祈りはキリストの優先事項、ひいては神の御言葉を反映したものになっていきます。

では、祈りと信仰はどのように結びついているのでしょうか。弟子たちの力不足は彼らの責任ではありませんでしたし、力不足によってキリストへの信仰やキリストとの交わりに悪影響はありませんでした。むしろ、彼らの力不足、そして、私たち自身の力不足や不適切さが明らかになった時、私たちがすべきことはよりもっと祈りに頼ることなのです。信仰と同じように、祈りとは、神からいただいた信仰を行使するための神の民への贈り物なのです。奇跡を起こしたり、異言を語ったり、神のために何かを主張することによって信仰を行使するのではなく、私たちは祈りによって信仰を行使するのです。この聖書の箇所では、この男の息子は癒しを必要としていました。皆さんの中に、今日（神様に）奇跡を起こしてほしいと願っている人はいますか？自分自身や愛する人のために起こってほしいと願う癒しが、皆さんにはありますか？もちろんあるでしょう。しかし、そのような願い、願望に対する答えは、祈りなのです。私たちは、奇跡を求めるのではなく、イエスを求めるべきなのです。私たちは、より多くの行いや、より多くの義や、より多くの信仰を（神に）捧げようとするのではなく、イエスに向かうべきなのです！私たちは、（神様の）癒し、愛、あわれみ深く、恵み深い神への信仰を示すために、祈りによって神に向かうのです。ヤコブの手紙 5:16には次のように書かれています。¹⁶ですから、あなたがたは癒やされるために、互いに罪を言い表し、互いのために祈りなさい。正しい人の祈りは、働くとき大きな力があります。そして、信仰と同じように、その業は神の御業であって、私たちの業ではありません。ですから、祈りの中で神に立ち返り、すべてを支配する神がご自身の栄光と私たちの益のために計画を持っておられることを信じて、信仰の中に生きましょう。では祈りましょう。

Mark 9:14-29 A follower of Christ prays in faith

Today we pick back up in Mark 9 after Peter James and John come down the mountain from the transfiguration and we see them reconnect with the other 9 disciples. And immediately when they step right into the next events of that day, Jesus uses the immediate context they are confronted with to teach them more about the faith that characterizes a follower of Christ. Our passage today is Mark 9:14-29. As we read this passage, keep in mind what at least three of the disciples have just experienced. They experienced first hand the glory of God displayed in the transfiguration. We will have those experiences as well. Not in the same way, but times where our worship pushes aside the cares and concerns of this world and causes us to truly focus on who God is and how our life is changed by knowing him. Hopefully, that is what our worship services remind us of in a small way each week as we gather. But after any mountaintop experience of God's glory, there is an inevitable return to the world where we have to utilize our faith that is strengthened by our experience of God's glory. This is what we see as this passage begins.

Let's begin by reading Mark 9:14-16. **14 And when they came to the disciples, they saw a great crowd around them, and scribes arguing with them. 15 And immediately all the crowd, when they saw him, were greatly amazed and ran up to him and greeted him. 16 And he asked them, "What are you arguing about with them?"** The real world is not focused on the glory of God. There are religious people who may claim to worship God, but in reality are false teachers who are leading people away from God. That is who we see in the Scribes arguing with the disciples. There are crowds, who as we have pointed out before, are interested in miracles as we will see again here, but they are not followers of Jesus. Both from the false religion side, here represented by the scribes, and from the world's perspective, represented by the crowds, it is easy to get dragged into events and arguments and discussions that distract us from the regular worship of God and following Christ. But we are called to live in this real world that rejects or misunderstands our faith in Christ. But when Jesus is present in these situations then we can have confidence in Jesus Christ's work no matter whether it is religious opposition, the world's misunderstanding or the pain of physical and in this case, as we will see, demonic illness. The problem was Jesus had been absent, but now when he returns, everything changes, as he addresses all of those gathered by questioning them about what was taking place and causing angry arguments with his followers.

In this situation, what had happened was a situation had come up, and apart from Jesus's presence the disciples had not been able to make a difference. This can happen to us as well. In the real world, we are often confronted with difficulties in our lives that can shake us to the very core of our faith. That is what we see as a man emerges from the crowds who seems to be the reason that the crowds and the Scribes were arguing with the disciples. Let's read the second part of this event from verses 17-27. **17 And someone from the crowd answered him, "Teacher, I brought my son to you, for he has a spirit that makes him mute. 18 And whenever it seizes him, it throws him down, and he foams and grinds his teeth and becomes rigid. So I asked your disciples to cast it out, and they were not able." 19 And he answered them, "O faithless generation, how long am I to be with you? How long am I to bear with you? Bring him to me." // 20 And they brought the boy to him. And when the spirit saw him, immediately it convulsed the boy, and he fell on the ground and rolled about, foaming at the mouth. 21 And Jesus asked his father, "How long has this been happening to him?" And he said, "From**

childhood. 22 And it has often cast him into fire and into water, to destroy him. But if you can do anything, have compassion on us and help us.” 23 And Jesus said to him, “If you can! All things are possible for one who believes.” 24 Immediately the father of the child cried out and said, “I believe; help my unbelief!” // 25 And when Jesus saw that a crowd came running together, he rebuked the unclean spirit, saying to it, “You mute and deaf spirit, I command you, come out of him and never enter him again.” 26 And after crying out and convulsing him terribly, it came out, and the boy was like a corpse, so that most of them said, “He is dead.” 27 But Jesus took him by the hand and lifted him up, and he arose.

Here we get to the core of the matter. The disciples had tried to help this man, but were unable to do so. The crowds were used to seeing healings that Jesus had done. The Scribes were used to making different arguments as to why those healings were not from God. And this man with the demon possessed son had heard story after story of how Jesus had healed, and yet that had not happened. Jesus enters into the picture and shows how true faith works. And it is not in the way that any of these people gathered were thinking that it worked. The first aspect of this healing to notice is that the focus here is not on the miracle but on faith in Jesus Christ. The amount of faith is not important, but the presence of faith is. We see this in two different ways. The disciples could not cast the demon out of the boy, but Jesus did not accuse them of a lack of faith or a hardness of heart as he had in the past. Remember back in Mark 6, Jesus did accuse them of this. [Mark 6:51-52](#) says, [And he got into the boat with them, and the wind ceased. And they were utterly astounded, 52for they did not understand about the loaves, but their hearts were hardened.](#) But as one commentator on this passage put it, [“inability is simply a limitation, not a fault…”](#) It is the crowds who are criticized as a […faithless generation](#), not the disciples. The crowds as usual do not have faith in Jesus, but have simply gathered to see the show that the disciples could not perform. There are always going to be challenges that we do not meet because of our human limitations, and just like the disciples, Jesus is not waiting to bring a hammer down on us for failure. Instead he acts on behalf of those who believe in him, not based on our ability or lack of ability but on our faith. That is what we see in the second and primary way that faith is recognized in this passage. Of course that is in the father. This father had exhausted all hope, and when he heard that Jesus was around, he came and brought his son. He had watched this boy suffer for many years from the evil spirits that indwelt him, and even if Jesus himself was not available, then perhaps his followers could perform the same healing. As we have seen before in Mark, we see that when human hope is exhausted, Jesus steps in and gives hope.

As we see the problem is not the man's faith. The problem is where that faith originally was. Perhaps Jesus's followers were just as good as Jesus? His faith rather than being solely focused on Jesus was focused on his disciples in a way. But when he expressed his faith in Jesus, Jesus brought hope to his desperate situation. We know that the disciples had faith in Jesus. That has been made clear in the book of Mark so far. And now Jesus causes this man to recognize his faith in him as the Son of God. But he does so by using his clear lack of faith. The man basically says, “please help us, if you can…” Jesus responds in verse 23, [“If you can! All things are possible for one who believes.”](#) Jesus is not being mean or cruel in his response. He is not even being sarcastic. He is trying to get this man to see that the little faith he has is enough. Because then the man gives the answer in verse 24 that shows that he does have faith

and it is the answer that all of us must give to Jesus. **“I believe; help my unbelief!”** All of us who have faith in Jesus Christ are in some way in the same place as this man. We have faith, but none of our faith is perfect. Those with true faith are always aware of how small and inadequate their faith really is. But the wonderful truth in that is that God is not looking for perfect faith, but real faith. In fact, whatever faith we exercise came as a gift from God anyway, so he responds to that faith by working on our behalf. We see this truth in [Ephesians 2:8-9](#) **8 For by grace you have been saved through faith. And this is not your own doing; it is the gift of God, 9 not a result of works, so that no one may boast.** Starting with our very salvation and continuing throughout our lifetime until our faith become fully realized in the presence of Jesus, we are believing and trusting in Jesus through God’s gift of faith that He alone gives to those he has chosen for salvation.

There is something else to note here, though. One of the reasons that we fail to trust Jesus in all things is that when Jesus shows up, although he is there, things do not always get better right away. In fact, sometimes things get worse. This is what we see in verse 20. Apparently, the boy is doing fine as they bring him over to see Jesus, but in the presence of Jesus the demons hurt the boy physically. In other words, the situation is getting worse, not better. If you remember the story of Job in the Old Testament, God himself was clearly working directly in Job’s life, but in a way that was very negative from his perspective. Job’s response was to see nothing but silence from God. [Job 30:20](#) says, **I cry to you for help and you do not answer me; I stand, and you only look at me.** Just like this man with his son, to Job, life got more difficult when God chose to test him. Job had faith in God, but that did not mean that life was easier, in fact Satan would have left him alone if he had not been a worshipper of the true God. Ultimately, Jesus comes into this situation as the all powerful God to work a miracle, but it is worth noting that sometimes God’s presence in a situation may not look like the blessing we think it should be. And part of the reason for this is that we as humans are looking for a miracle, something God does, but God is telling us to trust who he is. We can be amazed at a miracle, but he wants us to trust and believe in him, and we only do that with a person. That person is Jesus.

And Jesus responds to the man’s faith by exercising his compassion exactly as the man had asked in verse 20, **have compassion on us and help us.** Jesus wanted the crowd to see the man’s faith and God’s response to his faith, so verse 25 says, **And when Jesus saw that a crowd came running together.** While they do not yet believe in Jesus, at least not with true belief apart from a desire for seeing the miraculous, the best witness to the truth of the gospel is the faith of those who truly follow Jesus. Jesus was going to make a public demonstration of healing so that the crowds could see the power of real faith. Will Jesus always do this? No, but anytime we see God do the miraculous, we should expect that it is not only for the benefit of the one who received the blessing, but also those who see it. There is no better witness to the truth of the gospel, than the faith that is lived out by those who have faith in Jesus Christ. Small faith, large faith…once again, the amount of faith doesn’t matter, but the effect of that faith on our lives as God changes us, and sometimes intervenes in circumstances around us, will be evidence to the world around us of the difference faith in Christ makes in our lives. So, Jesus heals the boy by freeing him from the demon that possessed him. Remember that Jesus has just begun to be very direct about the necessity of his death and resurrection, and this miracle serves in a small way as an object lesson of the meaning of his coming

death and resurrection. The people thought the boy was dead. Freedom from the demons came with the boy's "death" ...supposed death anyway. Freedom from sin can only come through Jesus's death, whereby he pays the price for our sin. But the guarantee of our faith comes with Christ's resurrection. In the same way that the boy was fully restored to a life free from the demonic, our faith is not in a dead Savior, but a risen Lord Jesus Christ.

But there is one final major piece to this lesson on faith that Jesus is offering to all who are seeing it. Let's see the place that prayer has in faith as this episode draws to an end in verses 28-29. **28 And when he had entered the house, his disciples asked him privately, "Why could we not cast it out?" 29 And he said to them, "This kind cannot be driven out by anything but prayer."** The disciples had a valid question – why couldn't they cast the demon out? Jesus's answer was simple, prayer. The bridge between God's work and our faith is prayer. The outcome of any situation is determined by God, not by our amount of faith; but our response to any situation should be one- exercise our faith by turning to God in prayer. This is the first time Jesus has called anyone to pray in the book of Mark. There are only a few times where Jesus calls people to prayer, but they all happen during these final weeks that are leading to his death. If we are to understand the connection between faith and prayer, then we need to know what prayer is. Prayer is at its most basic simply talking to God. There is no correct formulation or proper words, it is whatever words we use to pour out our thoughts of worship, fears, needs, concerns, hopes and desires to God. While there are no correct or incorrect things to pray about, the more we know Christ which comes through God's Word, the more our prayers will reflect his priorities and, therefore God's Word.

So, how does prayer connect with faith? The inability of the disciples was not their fault, and it did not have a negative effect on their faith in Christ or their fellowship with Christ. Instead what their inability did and our own lack of ability and inadequacy should lead to is more prayer. Just as faith, prayer is God's gift to his people to exercise the faith we have received from God. We don't exercise faith by doing miracles or speaking in tongues or claiming things for God, we exercise faith by prayer. In this Biblical event, the son had a need of healing. Are there people who we would like to see miracles happen for today? Are there healings that we want to see happen for ourselves or our loved ones? Of course there are. But the answer to those needs, to those desires, is prayer. We don't seek a miracle, we seek Jesus! We don't try to offer more works or more righteousness or more faith, we turn to Jesus! The way we show that we have faith in a healing, loving, merciful and gracious God, is by turning to him in prayer. And our God tells us in **James 5:16, Therefore, confess your sins to one another and pray for one another, that you may be healed. The prayer of a righteous person has great power as it is working.** And just as with faith the work is a work of God, not of us. So, let's exercise our faith, by turning to God in prayer and trusting that the God who is sovereign over all has a plan for his glory and our good. Let's pray.